特定外来生物とは

もともと日本にいなかった外来生物のうち、特に生態系などに大きな被害を与えるおそれがある生物のことです。このうち、**特定外来生物に指定されている植物は繁殖力がとても強いため、放置しておくと在来植物を駆逐してしまいます。**これらの植物は、栽培、**生きたままの運搬**、保管、植え替え、種子をまくこと等が法律で原則禁止されています。

特定外来生物（植物）の処理方法　※以下の方法であれば生きたままの運搬が可能です。

1 いつ駆除を行うかを掲示板・回覧板やホームページ等で事前に告知する

2 駆除した植物を袋に入れてしっかり梱包し、速やかにゴミ焼却場へ

外来種被害予防三原則

入れない

悪影響を及ぼすおそれのある外来種を「入れない」

捨てない

栽培・飼育している外来種を「捨てない」

拡げない

既に野外にいる外来種を他の地域に「拡げない」

ブラジルチドメグサの駆除を行っている人の声

私たち「くるめ外来種ネットワーク」では、2019年に、久留米市を流れる高良川に大量発生したブラジルチドメグサの駆除を行いました。川には12か所でブラジルチドメグサが確認されていたため、上流から順に駆除を行い、全て終えるまでおよそ１カ月かかりました。

ブラジルチドメグサの駆除にあたって、とにかく頭を悩ませたのは「再生力の強さ」です。再生を防ぐために茎を残すことができないので、土の中まで伸びた茎を探し当てて駆除することが一番苦労しました。

そして最も重要と思うことは、「継続すること」です。ひととおり駆除しましたが、一部取り残しから再生してくるため、現在も時間を見つけてはこまめに駆除を行い、完全防除を目指しています！

くるめ外来種ネットワーク
久留米市を中心に活動し、行政や市民と連携して、侵略的外来種の生息調査・防除などを実施している。

発行：福岡県環境部自然環境課　TEL:092-643-3367　E-mail:shizen@pref.fukuoka.lg.jp

特定外来生物の駆除にご協力ください！

ブラジルチドメグサ

福岡県環境部自然環境課

多年草

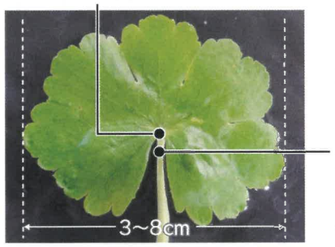
ブラジルチドメグサ

Hydrocotyle ranunculoides L.f.

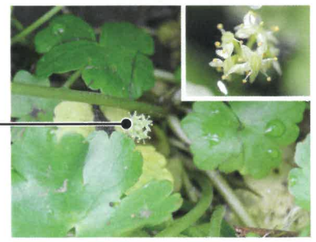
科　　名：セリ科（ウコギ科）
原 産 地：南北アメリカ
定着状況：筑後地域のクリーク、筑後川、矢部川、祓川など
生育場所：クリーク、河川、水路、ため池など

ブラジルチドメグサの特徴

葉柄（葉を支える柄の部分）は切れ込み付近につく

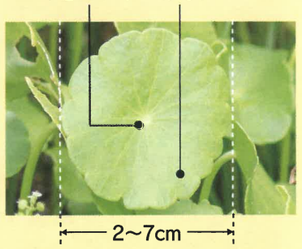


花茎は短く、先端だけに花がつく



ブラジルチドメグサと似ている外来植物

ウチワゼニクサ



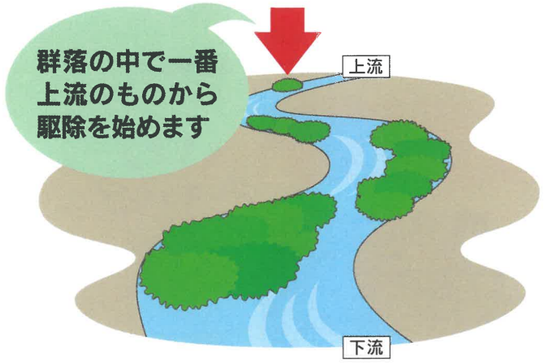
ウォーターマッシュルームと呼ばれ、観賞用の水草として販売されています。
茎からの再生能力が高く、野生化すると急速に拡がります。自宅で育てている場合、絶対に野外に放出しないようにしましょう！

駆除の方法

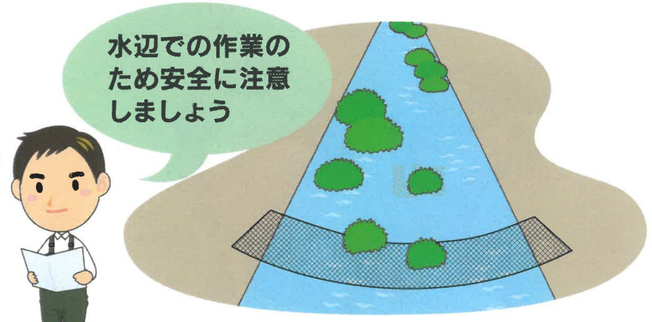
POINT!

- ブラジルチドメグサの駆除は、茎の断片を下流に流さないことが重要です。
- 一度で完全に駆除することは難しいため、駆除箇所は定期的に監視し、再生している個体を見つけたら小まめに駆除を繰り返しましょう。

ステップ1
駆除する場所を決める



ステップ2
ネット（オイルフェンスも可）で駆除箇所を囲う



ステップ3
駆除を行う

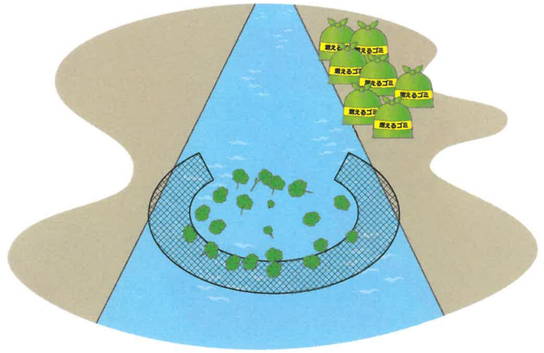
浮いている場合

- 他の植物に絡んでいる時は、絡んでいる植物を鎌等で切り、まとめて除去する

根が張っている場合

- 根や茎が残らないように慎重に引き抜く
  ※重機を使う場合は、泥ごと15cmほど掘る

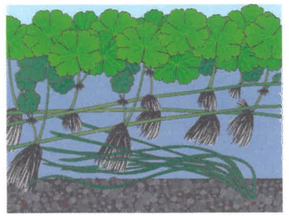
ステップ4
囲いの中の切れ端を除去する



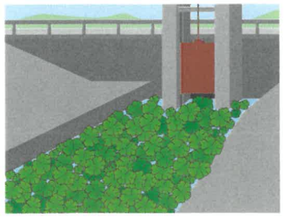
- ネット等をたぐりよせ、茎の断片が残らないよう除去する

ブラジルチドメグサによる被害・影響

ブラジルチドメグサの葉や茎は切れやすく、茎の断片からでも簡単に再生するため、分布が拡がっています。このため、様々な問題を引き起こしています。



水生植物の日照不足



通水阻害

効果的な駆除の豆知識

猛暑日後

大雨後

連続の猛暑日や大雨の後は、しばしば枯死（茶色く変色している部分）が見られ、葉や茎が減少することから、この時に駆除を行うと効果的です。

冬

駆除後は冬に取り残しをチェックしましょう。冬は周りの植物の葉が枯れるので、見つけやすくなります。